

令和 2 年 5 月 25 日現在

機関番号：20101
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2015～2019
 課題番号：15K11708
 研究課題名(和文) 助産師の実践能力向上にむけたケア経験から学ぶ力・学びを育む力の評価ツールの開発

研究課題名(英文) Development of an evaluation tool for the ability to learn and foster learning from care experience for improving the practical skills of midwives

研究代表者
 正岡 経子(MASAOKA, KEIKO)
 札幌医科大学・保健医療学部・教授

研究者番号：30326615
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、助産師の『ケア経験から学ぶ力』『ケア経験からの学びを育む力』を明らかにし、それらを評価するためのツールを開発することである。助産師がケア経験から学ぶためには、【先輩の実践や助言から学びとる】【自己の判断と行動を振り返る】【対象者の立場にたって考え思いに気づく】など6つの要素が必要であることが明らかになった。また、先輩が後輩助産師の学びを育むためには、【後輩助産師の日々の変化と成長を捉える能力】【自己の内面を見つめ、後輩と関わる方向性を修正する能力】など4つの要素が必要になることが明らかになった。今後は、作成した評価ツールの運用を重ね、教育研修プログラムを構築することが課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 助産師として習得する必要がある能力や、その獲得のための体系化された研修プログラムが整備されているが、実際にはプログラム通りに進まない場合や、新人助産師が早期離職するケース、指導する先輩助産師の困難感も報告されている。本研究成果により助産師の成長をサポートするための示唆が得られ、臨床現場における助産師の人材育成・人材確保に寄与できると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the ability of midwives to learn from experience and the ability to nurture learning from experience, and to create tools to evaluate them. In order for midwives to learn from care experience, six elements are required, such as [learning from the practice and advice of senior midwives] [reflecting on my own judgements and actions], [understanding how the patient feels by putting myself in her position] became clear. In order for seniors midwives to nurture the learning of junior midwives, there are four elements such as [ability to grasp the daily changes and growth of junior midwives] [ability to look inside oneself and correct the direction in which they interact with junior midwives] became clear. In the future, it will be an issue to repeat the operation of the created evaluation tools and build an education and training program.

研究分野：助産学

キーワード：助産師 経験学習 ケア実践能力 助産師教育 評価ツール

1. 研究開始当初の背景

近年、産婦人科医の不足と偏在を背景に、助産師に対する期待は大きくなっている。地域では開業助産師が、主体的な出産や自然な出産を望む女性のニーズに応えるケアを提供しており、病院・診療所などにおいても院内所産院や助産師外来の開設が進み、女性と家族の多様なニーズに応え、ケアの質向上を目指した取り組みが行われている。このような役割を担う助産師には、その専門的立場から正常な妊娠・出産に対する適切な判断力と安全・安楽な出産のケア能力が一層求められている。助産師の判断・ケア能力は、経験年数と正の相関があり¹⁾、熟達助産師の卓越したケアは多くの研究で報告されている²⁾³⁾。一方で、経験年数を重ねた者のなかには判断能力が未熟な助産師の存在も報告されており⁴⁾⁵⁾、経験の長さだけではなく経験の質が重要であると考えられる。

そこで我々は、助産師がどのような妊産婦のケア経験を通して、どのような知識および技術(経験知)を獲得しているのかについて、助産師 31 名を対象にナラティブリサーチを行った⁶⁾。その結果、経験 10 年未満の助産師は、異常経過の妊産婦ケア、対象者からのフィードバック、ケアの後悔や失敗、先輩助産師からの学びなどの経験から、出産の怖さと助産師の判断・責任の重要性、教科書通りにいかないケアの個別性、緊急時の対応など、8 つの経験知を獲得していることが明らかになった。一方、経験 10 年以上の助産師は、正常および異常経過の母子へのケア、助産師 1 人もしくは医療機器の少ないなかでの妊娠・分娩ケア、医師との対立などの経験から、正常・異常の見極めと医師につなぐタイミング、女性の産む力と自然回復力など、7 つの経験知を獲得していることが明らかになった。さらに、経験知の獲得には、緊急帝王切開や母体搬送など異常経過のケア経験、急変徴候を見逃した経験など後悔や焦り・失敗の経験が関連していることが明らかになった。

このように助産師は、経験年数とケアの積み重ねを通して教訓や経験則を獲得しているといえる。この獲得の背景には、助産師自身の経験から学ぶ力が関与しており、この力が助産師が成長するうえで重要な要素であると考えられる。さらに、先輩助産師は助産師の成長にとって必要不可欠な存在であり、先輩助産師の経験からの学びを育む力も、助産師の成長に大きく関与していると考えられる。

助産師として修得すべき能力や、その獲得のための体系化されたプログラムについては、新卒助産師研修ガイド⁷⁾が示されており、臨床では新人助産師の個別性や到達レベルに応じた指導が行われている。しかし、実際にはプログラムどおりに進まない場合も多く、新人助産師は基礎教育終了時の能力と臨床現場で求められる能力のギャップに悩み早期離職するケースや、指導する側の先輩助産師の困難感も多く報告されている。このような学習上の困難さを解決するためには、個々の助産師の成長を支える経験から学ぶ力と経験からの学びを育む力を強化する必要があるが、先行研究ではこの点に着目した調査は行われていない。そこで、これらの力を明らかにすることにより、助産師の効果的な人材育成に寄与できるものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、助産師の『ケア経験から学ぶ力』および『ケア経験からの学びを育む力』を明らかにし、『ケア経験から学ぶ力』および『ケア経験からの学びを育む力』を評価するためのツールを開発することを目的とする。

研究 1: 学び上手な助産師の『ケア経験から学ぶ力』に含まれる要素を明らかにし、評価ツールを作成する。

研究 2: 後輩助産師を育成する育て上手な先輩助産師が持つ『ケア経験から学びを育む力』に含まれる要素を明らかにし、評価ツールを作成する。

研究 3: 『ケア経験から学ぶ力』および『ケア経験からの学びを育む力』評価ツールを、臨床現場の新人助産師教育に導入する。

3. 研究の方法

研究 1

- 1) 研究デザイン：質的記述的研究。
- 2) 研究対象：ケア経験を積み重ね成長している学び上手な助産師として、看護部長もしくはそれに準ずる職位の看護職から推薦を受けた、助産師経験 10 年未満の助産師。
- 3) 調査時期：2016 年 10 月～2017 年 3 月。
- 4) データ収集方法：半構造的インタビューを行い、妊産婦ケアに関する印象深かった出来事および得た学び、仕事に対する満足感や達成感、やりがいなど、仕事の継続と自己の成長に欠かせなかった人物や事柄について聞き取った。

5) データ分析方法：質的帰納的分析。

研究2

1) 研究デザイン：質的記述的研究。

2) 研究対象：後輩指導において育て上手な先輩助産師として、看護部長もしくはそれに準ずる職位の看護職から推薦を受けた、助産師経験10年以上の助産師。

3) 調査時期：2016年10月～2017年3月。

4) データ収集方法：半構造的インタビューを行い、後輩指導に関する印象深い出来事およびその経験から得た学びについて聞き取った。

5) データ分析方法：質的帰納的分析。

研究3

現在評価ツールの項目を検討、作成中であり、今後新人助産師教育に導入する予定である。

倫理的配慮

本研究は、札幌医科大学倫理委員会の承認を得て行った(承認番号28-2-15)。研究対象者には文書および口頭にて、研究の趣旨、研究協力の任意性と撤回の自由、個人情報保護、データの保管方法、研究成果の公表等について説明し、同意書への署名をもって同意とみなした。

4. 研究成果

研究1

1) 研究対象者の背景：研究対象の助産師6名の平均年齢は33.7歳(31～38歳)で、平均助産師経験年数は8年6か月(7年6か月～9年10か月)であった。

2) 分析結果：分析の結果、学び上手な助産師が持つ6つの要素が明らかになった。【先輩の実践や助言から学びとる】は、助産師が先輩のケア実践や助言の意味を考え納得して、自分自身のケアに取り入れることを示している。【他職種に相談し助言を得る】は、先輩助産師だけではなく医師や看護師からも助言を得ることを示している。【自己の判断と行動を振り返る】は、失敗や後悔が残るケア経験をしたとき、自分がどのように判断しどのように行動したのかを内省することを示している。【対象者の立場にたって考え思いに気づく】は、対象者を慮り、その思いに気づくことを示している。【改善策を実践し手応えを実感する】は、失敗や後悔が残るケア経験から得た教訓や、先輩の助言から見出した改善策を行ったときに、手応えを感じることを示している。【明確な助産観を持ち、助産師としてのやりがいを持つ】は、母子によりよいケアを提供するための明確な助産観を持ち、助産師として働くことにやりがいを感じていることを示している。

3) 考察：助産師がケア経験から学び成長するためには、自分が得た教訓や先輩の実践・助言を基に、自己の実践を変化させる柔軟性と行動力を持つこと、実践した手応えを実感することが必要であると考え。本研究結果は、看護師を対象とした先行研究⁷⁾⁸⁾と類似した結果であることから、看護師基礎教育の時期からこれらの要素を育むことにより、ケア経験から学び成長できるのではないだろうか。

研究2

1) 研究対象者の背景：研究対象の助産師14名の平均年齢は44.4歳(35～56歳)で、平均助産師経験年数は16年7か月(11年3か月～34年8か月)であった。

2) 分析結果：育て上手な先輩助産師が持つ4つの要素が明らかになった。【後輩助産師の日々の変化と成長を捉える能力】は、後輩の表情や言動、他者とのやりとりの場面から理解度を捉え、後輩の状況に合わせた指導の方向性を考えていることを示している。【自己の内面を見つめ、後輩と関わる方向性を修正する能力】は、自己の傾向と価値観を客観視し、余裕とゆとりを持つよう自己をコントロールすることを示している。【効果的な後輩指導の具体的な方法を見つけ、実践する能力】は、信頼している同僚であることを伝えるなど、緊張感を高めない雰囲気づくりを工夫していることを示している。【後輩との関わりを楽しむ能力】は、後輩との関わりを通して自身も学び、充実感や達成感を得て仕事のモチベーションを高めていることを示している。

3) 考察：育て上手な先輩助産師は、後輩の表情や言動などの日々の変化を継続して捉え、その反応に合わせて自身の指導を評価しその後の実践に結び付けていた。育て上手な助産師が持つ能力の根底には、後輩指導を通して自分の傾向と価値観に気づき、後輩との関わりから学び続ける姿勢があると考え。新人指導において、定点観測で新人の変化に気付き支援することが重要といわれている⁹⁾。育て上手な先輩助産師は、新人の変化に気付き支援することに加えて、自身の指導の評価やその後の実践の工夫を行っていた。育て上手な助産師が持つ能力の根底には、後輩指導を通して自分の傾向と価値観に気づき、後輩との関わりから学び続ける姿勢がある。後輩との双方向の関わりを重視した先輩助産師の姿が、後輩の学び力を養うことにつながっていると考える。

今後の課題

今後の課題は以下2点である。

- 1) 本研究で明らかになった育て上手および学び上手の要素を反映して作成した評価ツールを臨床で試用し、修正を重ね、より現場に即した評価ツールを完成させること。
- 2) 後輩助産師がケア経験から学び自身を成長させるため、また、先輩助産師は後輩を支援する力を養うため、助産実践場面に根差した研修プログラムを開発すること。

引用文献

- 1) 村上明美, 平澤美恵子, 滝沢美津子他: 「日本の助産婦が持つべき実践能力と責任範囲」に関する助産婦の認識. 助産婦雑誌 56: 844-850, 2002
- 2) Kennedy H.P., Shannon M.T.: Keeping birth normal: research finding on midwifery care during childbirth. Journal of Obstetric, Gynecologic and Neonatal Nursing 33: 554-560, 2004
- 3) 渡邊淳子, 恵美須文枝, 勝野とわ子: 熟練助産師の分娩第1期におけるケアの特徴. 日本保健科学学会誌 13: 21-30, 2010
- 4) 三輪峰子, 広瀬泰子, 神谷るり子他: キャリア成長への支援. 岐阜県母性衛生学会雑誌 24: 67-75, 1999
- 5) 吉田沢子, 久世恵美子, 上山和子他: 看護師の臨床判断能力の実態. 日本看護学教育学会誌 12: 22-35, 2002
- 6) 正岡経子, 丸山知子: 産婦ケアにおける助産師の『語り』から経験知を抽出するナラティブ分析. 日本保健医療行動科学学会年報 26: 158-168, 2011
- 7) 新裕紀子, 中尾久子, 濱田裕子: 臨床看護師が成長に向かう動機づけの構造. 日本看護科学会誌 39: 29-37, 2019
- 8) 松尾睦, 正岡経子, 吉田真奈美他: 看護師の経験学習プロセス 内容分析による実証研究. 札幌医科大学保健医療学部紀要 11: 11-19, 2008
- 9) 西田朋子: 新人看護師の成長を支援する OJT. 東京, 医学書院, 2016, pp. 31-32

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 植木瞳、中村彩希子、正岡経子、林佳子、荻田珠江、前田尚美、白井紀子	4. 巻 9
2. 論文標題 経験10年未満の助産師がもつ、ケア経験から学び成長するために必要な学ぶ力の要素	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 札幌保健科学雑誌	6. 最初と最後の頁 7-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15114/sjhs.9.7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中村彩希子、正岡経子、植木瞳、相馬深輝、林佳子、荻田珠江、前田尚美、丸山知子
2. 発表標題 学び上手な助産師が持つケア経験から学ぶ力に含まれる要素
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村彩希子、正岡経子、林佳子、前田尚美、植木瞳、荻田珠江
2. 発表標題 育て上手な先輩助産師が後輩の学ぶ力を育む能力
3. 学会等名 第33回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荻田 珠江 (OGITA TAMAE) (40506242)	札幌医科大学・保健医療学部・講師 (20101)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林 佳子 (HAYASHI YOSHIKO) (50455630)	札幌医科大学・保健医療学部・講師 (20101)	
研究分担者	蝦名 智子 (EBINA SATOKO) (50583738)	札幌医科大学・保健医療学部・講師 (20101)	
研究分担者	相馬 深輝 (SOUMA MIKI) (30753503)	札幌医科大学・保健医療学部・助教 (20101)	
研究分担者	小林 径子 (KOBAYASHI KEIKO) (80757352)	札幌医科大学・保健医療学部・助教 (20101)	
研究分担者	植木 瞳 (UEKI HITOMI) (60758671)	札幌医科大学・保健医療学部・助手 (20101)	
研究分担者	丸山 知子 (MARUYAMA TOMOKO) (80165951)	札幌医科大学・その他部局等・名誉教授 (20101)	
研究分担者	前田 尚美 (MAEDA NAOMI) (60407129)	札幌医科大学・保健医療学部・講師 (20101)	
研究分担者	中村 彩希子 (NAKAMURA SAKIKO) (60832475)	札幌医科大学・保健医療学部・助手 (20101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	白井 紀子 (SHIRAI NORIKO) (00854093)	札幌医科大学・保健医療学部・助教 (20101)	